

広報

人と自然がひびきあう県北の都 玉名

たまな 7

1日号
2012
No.161



マラソン十訓

- 一、規則正しい生活をなせ。
- 一、全身の強健を計り忍耐力を養へ。
- 一、速度は緩より急に、距離は短より長へ。
- 一、感情の昂奮を抑へ、精神の平静を保て。
- 一、過労を避け早く寝て熟睡せよ。勢力を浪費するな。
- 一、滋養物を摂取せよ。暴飲暴食を慎め。
- 一、酒、煙草の類は必ず厳禁せよ。
- 一、練習は細心に、競走は大胆に。
- 一、競走年齢は十七、八歳より三十五、六歳迄が最も適當。
- 一、競走は最後迄堂々、力を盡せ（尽せ）。

03 ●玉名市のまちの話題 t o p i c s

肥後伊倉駅前の花壇がきれいに／ホテル観賞会／園児から花をプレゼント／第13回熊本県中学生弓道選手権大会／2012年インドパシフィック大会選考会／全日本小学生ソフトテニス選手権大会熊本県予選／第21回玉名市長杯囲碁大会／第8回RKK旗選抜少年軟式野球大会／第22回高瀬裏川花しょうぶまつり／

06 平成24年春の叙勲・褒章／中央公民館夏休み講座／

08 ●金栗四三の軌跡

●くらしの情報局

12 ●イベント&講座 肝炎患者サロンを開催します／第51回玉名市童話発表大会開催／国立波方海上技術短期大学オープンキャンパス／こころピアからのお知らせ／九州看護福祉大学公開講座／

13 ●募集 夏休み算数教室へのおさそい／熊本県介護支援専門員実務研修受講試験／湯けむり朝市／

14 ●T a m a n a c a l e n d a r

1日図書館員募集のお知らせ／金婚式を迎える皆さんへ／リサイクル体験受講者募集／EM団子づくりへの参加のお願い／イノシシ被害と防ぎ方に関する研修会／消費生活Q&A／玉名市人材育成基金助成事業の募集について／ワンバウンドふらば〜るボールバレー・ペタンク大会／昭和の暮らしと遊び体験／第17回全国将棋寺子屋合宿／キッズ防災塾／6次産業推奨品紹介／玉名市6次産業推進勉強会（7月）／第4回森林自然観察・体験教室／

20 ●福祉&健康 若人健診・若人国保人間ドック／男女共同参画社会をめざしてvol.19／肝炎治療無料検査／障害基礎年金受給者の現況届について／

21 ●相談 障がい者定期相談のご案内／たまな若者サポートステーション学習支援開始／

21 ●お知らせ 旧壽屋、桜デパート、アツマヤ百貨店の商品券還付手続き／社会を明るくする運動推進月間／公共職業訓練9月期生募集／農業体質強化基盤整備促進事業の要望調査／農業容器回収のお知らせ／中小企業退職金共済制度のお知らせ／犬を飼っている皆さんへ／荒・玉かわら版／熊本海上保安部からのお知らせ／休日在宅医の変更について／ありがとうございます～静光園老人ホーム～／扇風機d e 快適ライフ／

25 国民健康保険税のあらまし／後期高齢者医療被保険者へ／

28 みんなの広場／おすすめめっけもん！／編集後記／

■ 若き日の金栗四三の姿



広報 人と自然がひびきあう県北の都 玉名
たまな Contents **7**
2012 July
No.161

表紙は、^{かなくりしぞう}金栗四三が掲げた「マラソン十訓」と、本人が実際に使用していた「金栗足袋」と呼ばれるものです。当時は運動靴というものはなく、地下足袋のような履物で走ったそうです。オリンピック出場後、東京の足袋屋ハリマヤ黒坂親子に頼んで足袋の改良に取り組み、ハゼ（留め金具）をやめ、甲にヒモが付いた型に変わっていきました。

玉名市の まちの話題 topics



肥後伊倉駅前の花壇がきれいに！ J R鹿児島本線 肥後伊倉駅

5月13日、有志の人々の協力により、肥後伊倉駅前の花壇に花が植えられました。

今回植えられた花は、伊倉校区の荒平静雄さんが種から育てたもの。荒平さんは他にも、小中学校などの公共施設に花を贈る活動を現在も続けられています。

今年3月3日に、新駅舎と旧駅舎の交代式が開催され新しくなった肥後伊倉駅。今後も地域住民に親しまれているこの駅を、花でいっぱいにする活動が計画されています。



▲華やかになった駅前の花壇

初夏の夕べ、ホタルをみんなで観察したよ！ 玉名地域ホタルの里づくり協議会 ホタル観賞会（梅林井尻川、岱明町開田川）

今年も玉名市内の各所では、各地域でホタルの観賞会が開催され、その幻想的な光は、みんなの心を癒やしてくれました。

5月23日は、梅林地区でまちづくり委員会が主催するホタル観賞会が開催されました。梅林地区では10年以上も続く恒例の行事となっています。この日は、観賞会へ梅林小学校とその保護者、近隣の住民など60人以上が参加。ホタル池前の広場を出発し、みんなで井尻川沿いを歩きながらホタルを観賞しました。



▲ホタルの育成について発表する児童代表

また6月2日には、岱明町開田でホタル観賞会が開催されました。この観賞会は、開田区と開田子供会、ホタルを育てる会などが主催となり毎年開催しているもの。当日は睦合小児童やその保護者など、150人以上の人たちが集まりました。

ホタルの生態について説明を受けたあと、児童たちは実際にホタルの住む川沿いを探索。淡い光を放ちながら飛ぶたくさんのホタルを見た児童たちからは「きれい！」「すごいすごい！」と大歓声が上がりました。



▲神秘的なホタルの光に歓声を上げる子どもたち

♪ **トランポリン競技で国際大会へ** 2012年インドパシフィック大会選考会

5月11日から13日にかけて、山形県で2012インドパシフィック大会選考会が開催され、中尾裕聖さん（金沢学院大学、玉南中出身）が個人競技17歳以上男子の部3位に入賞。10月13日から19日にかけてオーストラリアで開催される2012インドパシフィック大会日本代表に選ばれました。この大会は、2年に一度、インド洋と太平洋に面した国が参加する国際大会。中尾さんは「みなさんの応援感謝しています。大会は全力でがんばります」と力強く答えました。



♪ **玉名から2ペア全国大会に出場** 小学生ソフトテニス選手権大会熊本県予選

5月12日に、宇土市営テニスコートで全日本小学生ソフトテニス選手権大会熊本県予選の決勝リーグ戦が開催されました。玉名市からは、男子の部で天水オレンジの境颯汰くん（小天小6年）・田上嘉伸くん（小天小5年）ペアが3位に入賞。また女子の部では玉名ジュニアの猪古雛里さん（玉名小5年）・片山美麗さん（築山小5年）ペアが準優勝しました。

この2ペアは、8月2日から4日に島根県（出雲市、松江市）で開催される全日本選手権大会に出場することが決まりました。



♪ **園児から花をプレゼント** おおとりの丘こども園

6月5日、岱明町上のおおとりの丘こども園の園児32人が岱明総合支所を訪れ、花をプレゼントしました。

この花のプレゼントは、父の日を前に、身近な職場で働く人への感謝の気持ちを養ってもらおうと昭和57年に始められたもの。出迎えた職員に、園児らが家で摘んだ手作りの花束をプレゼント。続いて同園の花のおおとりチビッコ応援団が演舞や歌を披露し、職員からは大きな拍手が贈られました。



▲いただいたお花は、窓口に飾らせて頂きました！

♪ **練習の成果を発揮して** 第13回熊本県中学生弓道選手権大会

4月29日、全国大会予選を兼ねた県中学生弓道選手権が植木弓道場で開催されました。団体女子の部で有明中学校2年の川原加奈さん、牧野歩美さん、松下茉生さんが、7月21日に東京の日本武道館で開催される全日本少年少女武道錬成大会へ出場を決め、また個人男子の部では有明中2年の上田康智くん、個人女子の部で松下茉生さんが見事優勝に輝き、8月25日から26日に東京の明治神宮で開催される全国中学生弓道大会への出場の切符を手に入れました。



▲写真左から上田くん、川原さん、松下さん、牧野さん

生徒たちの努力が結実！ 第8回RKK旗選抜少年軟式野球大会

6月9日、水前寺野球場で第8回RKK旗選抜少年軟式野球大会の決勝戦があり、天水中学校が臼杵市立西中学校（大分県）を4対3で下し、見事優勝しました。

予選の城北大会では決勝戦で敗れるも、本選での優勝を目指し練習に取り組み、その努力が今回の結果となりました。選手は「優勝できたのは今まで支えてくださった先生やコーチ、野球が出来る環境を作ってくださった地域の皆さんのおかげです。ありがとうございます」と話しました。



正面切っての真剣勝負 第21回玉名市長杯囲碁大会

5月27日、福祉センターで第21回玉名市長杯囲碁大会が開催され、この大会に市内外から105人が参加。「パチリ」と碁石を置く音だけが響く会場で真剣勝負を繰り広げました。

この大会は、囲碁文化を広く普及・発展させることを目的に、（公益財団法人）日本棋院玉名支部（支部長：有働博一）の主催で開催されているもの。

今回、参加者は実力ごとに6パートに分かれ対局。囲碁を通じて、男女問わず、さまざまな年代の人たちが交流を深めました。

▼パートごとの上位成績者一覧（敬称略）

パート	1位	2位	3位
A	大島 武尚	西村 寛	金森 修
B	前田嘉一郎	深浦 源一	野内 雅行
C	菅原 主税	倉光 謙治	牛島 芳裕
D	西田 眞直	泉 美都子	淵上 勝
E	永野 昌幸	町井 信広	荒木 正美
F	衛藤 俊郎	西本 盛一	吉田 隆治

第22回高瀬裏川花しょうぶまつり



5月25日から6月9日まで、高瀬裏川では「第22回高瀬裏川花しょうぶまつり」が開催されました。今年は開花が少し遅れましたが、6月2日のメインイベントには、大勢の人たちが高瀬のまちを訪れました。

①活気あふれる歩行者天国②野点のお手伝いをする男の子③立派な花びらを広げた花しょうぶ④大勢の観客を前に歌う歌手の樋口一さん⑤気品感じる魅力的な石垣⑥ポン菓子にビックリしたくまモン⑦タマにゃんと記念写真

■ 勲章・褒章 — 称えられる榮譽のしるし

平成24年 春の叙勲・褒章

旭日双光章 (保健衛生功労)

つるかみ じゅんいち
～鶴上 純一さん (81歳 亀甲)～



「医師は患者の相談を聞くことが仕事」と話す鶴上さん。小さい頃から野球が大好きで、野球を通して得た人間関係やチームワークを大切にしている性格が、今回の受章へとつながりました。

鶴上さんは昭和30年に熊本大学医学部を卒業後、50年以上にわたり医療に従事し、現在は鶴上整形外科リウマチ科理事長として地域医療に貢献しています。東京で生まれ、幼少期を満州で過ごし、就学中は人吉で暮らすなど、さまざまな環境や人間関係の中で育った経験から、視野の広い考え方が身についた鶴上さん。患者のために何が大切か考え、医者同士の連携が大切と思い、医師同士の連携向上のために尽力しました。

瑞宝小綬章 (消防功労)

あさおか のりあき
～朝岡 宣昭さん (70歳 上小田)～



地域と連携しなくては安全は守れないと消防団との連携訓練にも力を注ぎました。人と人の関係を大切にする性格の朝岡さん。今回の受章を多くの人たちが祝福しました。

朝岡さんは、昭和38年11月から消防士として働きはじめ、平成14年3月に有明広域行政事務組合消防正監を退職するまでの37年間、消防職員として地域の安全確保に努めました。消防士を目指したきっかけは、県職員であった父親などの影響。「自分も公務員として人の役に立とう」と思ったその気持ちはずっと変わらず、誰でも同じ消防・救急サービスを受けられるようにと、人材育成や組織体制・環境整備に尽力。また「消防隊員だけでなく、

叙勲・褒章とは、国または公共に対し功労のある人、社会の各分野で優れた活動をした人に、国から贈られるものです。この度、春の叙勲・褒章では、玉名市から4人が受章しました。

なお、防衛功労で瑞宝双光章を受章した友田和美さんは、掲載を辞退されました。

● 勲章制度の沿革

明治4年、明治政府の発案で、西欧諸国の勲章制度に習い、我が国における勲章制度を創設。明治8年に「勲章従軍記章制定ノ件」が公布されました。これが現在の我が国の勲章制度の始まりとなっています。

勲章・褒章の授与は原則として年2回、春は4月29日、秋は11月3日に春秋叙勲・褒章が、また、著しく危険性の高い業務に精励した者を対象とする危険業務従事者叙勲が春秋叙勲と同日付けで授与されています。

瑞宝双光章 (防衛功労)

おやま つぎのり
～小山 二法さん (61歳 岱明町大野下)～



小山さんは、昭和44年3月に自衛隊に入隊し、北熊本自動車教習所長を退職するまでの36年間、堅実な姿勢で自衛隊員として勤めました。学生の頃、自衛隊員として勤めていた近所の人と仲の良かった小山さんは、その影響もあり、学校を卒業後は「自分も自衛隊に入りたい」と思い自衛隊に入隊。自衛隊での大変な訓練も、周りの仲間や上司の支えと持ち前の負けん気で乗り越えてきました。仕事に対する姿勢としては「職務には、強い信念を持って取り組んできました」と自身について振り返りつつ「この仕事をやってきて、本当に良かったと思います」と受章の喜びを話しました。

小山さんは、昭和44年3月に自衛隊に入隊し、北熊本自動車教習所長を退職するまでの36年間、堅実な姿勢で自衛隊員として勤めました。学生の頃、自衛隊員として勤めていた近所の人と仲の良かった小山さんは、その影響もあり、学校を卒業後は「自分も自衛隊に入りたい」と思い自衛隊に入隊。自衛隊での大変な訓練も、周りの仲間や上司の支えと持ち前の負けん気で乗り越えてきました。仕事に対する姿勢としては「職務には、強い信念を持って取り組んできました」と自身について振り返りつつ「この仕事をやってきて、本当に良かったと思います」と受章の喜びを話しました。

中央公民館 夏休み講座

夏休みに親子で参加できる講座を開講します。大人気の手づくりパン講座やミサンガ作りなど、親子で一緒に夏休みの思い出を作りませんか？

応募の際のご注意をお読みのうえ、往復はがきかメール(パソコンのみ)、公民館窓口のいずれかの方法でお申し込みください。往復はがき、またはメールで申し込む場合は、応募方法を参考に必要事項を記入・入力し、中央公民館へ郵送もしくはメール送信してください。

応募方法

【メールで応募する場合】

・件名(タイトル)に『中央公民館』と必ず入力してください。

・本文に講座名と番号、住所、郵便番号、氏名、電話番号を入力し、公民館へ送信してください。

※携帯電話からのメールは受け付けておりません。必ずパソコンからの送信をお願いします。

【往復はがきで

応募する場合】

・下の記入例に沿って記入し、郵送してください。

〒□□□ - □□□□	・中央公民館 ・講座名と番号 ・郵便番号 ・住所 ・氏名(ふりがな付) ・電話番号
返信 自宅の住所 受講する人の氏名	(往信の裏になります)

〒865-0051	※何も書かないでください。 (返信の裏になります)
往信 玉名市繁根木88の1 中央公民館 行	

【公民館窓口で応募する場合】

・官製はがき1枚を持参し、中央公民館窓口までお越しください。(はがきの文面は未記入でかまいません)

応募の際のご注意

- 受講対象者：玉名市内に在住、通勤、通学をしている人。(高校生未満の人は、保護者の同意のもと参加してください)
 - 受講料：無料(別途材料費などが必要な場合あり)
 - 定員について
 - ・定員を大きく上回った場合、抽選になることがあります。
 - ・定員に満たない場合は、講座を取りやめることがあります。
- ※受講できる講座は原則として、お一人1講座までです。

中央公民館

〒865-0051 玉名市繁根木88-1 ☎75・1312 c-kyoiku@city.tamana.lg.jp

講座名	開講日	曜日	時間	定員	備考
① スマートフォン講座	8月4日	第1(土)	午前10時～正午	20人	対象：スマートフォンに興味のある人、使ってみたい人、持っているが使い方がわからない人など * 電話機の所有の有無は問いません。誰でも参加できます。 * スマートフォンに関するお悩みや質問にもお答えします。(当日使用する電話機は貸し出します)
	8月4日	第1(土)	午後1時～午後3時	20人	

■夏休み親子チャレンジ講座

③	親子手づくりパン講座	8月4日	第1(土)	午前10時～正午	15組	材料費：1000円程度(2人分) 対象：子どもと保護者のペア(子どもは複数でも可) 生地作りから焼き上げまで、パンが出来るまでの行程を親子で体験しましょう。
④		8月5日	第1(日)	午前10時～正午	15組	
⑤	親子ミサンガ作り講座	8月12日	第2(日)	午前10時～正午	15組	材料費：500円程度 対象：子どもと保護者のペア(子どもは複数でも可) 製作キットを使って簡単なミサンガとブレスレットを作ります。

※①・②のスマートフォン講座、③・④の手づくりパン講座は、どちらか希望の日程を選択してください。(重複不可)



ストックホルムオリンピック出場から100年 玉名が生んだ「日本マラソンの父 金栗四三」の軌跡

2012年7月、いよいよロンドンオリンピックが開催します。今年は、日本がオリンピックに初参加した1912年（明治45年）のストックホルム大会から、ちょうど100年の記念の年でもあります。そのスウェーデンのストックホルムで開催された第5回オリンピックには、2人の日本人が参加しました。そのひとりが金栗四三です。ストックホルムでは、今年6月にオリンピック100周年記念式典が催され、100年前と同日の7月14日には、記念祝賀マラソンも開催されます。また金栗四三が行方不明となった地点には、金栗の顕彰銘板が設置されることになっています。

この記念の年にあたり、郷土玉名の偉人で「日本マラソンの父」「駅伝の父」と称えられる、金栗四三の功績を改めて顕彰したいと思います。

●マラソン金栗誕生

金栗四三は、1891年（明治24年）、玉名郡春富村（現和水町）の造り酒屋に生まれました。後に玉名郡小田村（現玉名市）池部家の養子となります。

10歳で玉名北高等小学校（現南関町）に入学し、往復12キロメートルの道を毎日走って通学したそうです。その後、旧制玉名中学校（現玉名高校）

←ストックホルムオリンピックのポスター。初参加となる日本のために、日本語版も作成されました。



を優秀な成績で卒業し、東京高等師範学校（現筑波大学）に進学して徒歩部に入り、校長の嘉納治五郎（講道館柔道の創始者）に才能を見いだされます。

1911年（明治44年）11月に実施されたオリンピック国内予選会において、金栗四三は初めての40キロメートルを超えるマラソンでありながら2時間32分45秒で優勝しました。この記録は、当時の世界記録を27分も縮めるもので、前大会の第4回ロンドンオリンピック・マラソン優勝記録と比べても23分早く、オリンピックでのメダル獲得が期待されました。

●ストックホルムオリンピック出場

1912年（明治45年）7月14日午



どんな人物だったのか、偉人の内面を探る

マラソン選手として、偉大な経歴を持つ金栗四三氏。今回、金栗氏がどんな人物だったのか、直接本人と近所付き合いのあった人へ話を聞きました！

■初めて知った”マラソン”という言葉

1911年（明治44年）、羽田運動場でオリンピック代表選手選考大会が開催されました。この選考大会の告知記事とその種目を見た金栗氏は、なんとその時初めて“マラソン”という言葉を知ったそうです。まだマラソンという言葉が浸透しておらず、40キロを超える距離を走ることが日本では想像されてもいなかった頃に、金栗氏は手探りで練習をし、選考会を見事優勝で飾ったのです。

■先を見据えていたトレーニング指導

日本代表としてオリンピックに出場した金栗氏は、トレーニングに関する知識も豊富。小学校の子どもたちに、現在でいうサーキットトレーニング（複数の動きを組み合わせ、休憩を挟まずに繰り返す練習法）を教えていました。内容も、タイヤ飛びなど子どもたちにあわせたもの。運動に必要な感覚は12～13歳までにはほぼ成人の水準に近くなるとされています。小学校の頃からさまざまな運動を通して感覚を成長させることの重要性を、当時から金栗氏は知っていたのかもしれない。

■毎日かかさな朝夕の散歩

晩年、金栗氏は自宅から小学校までの約800メートルの距離を、雨の日も風の日も欠かさず、朝と夕方に往復していたそうです。「人間、足が大切」と話し、雨の日も傘を差しながら往復していたようです。

→小田校区にある『体力 氣力 努力』の文字が刻印された金栗氏の記念碑。多くの人々がこの場所を訪れます。



後1時48分、スタートを告げるピストルがスタジアムに鳴り響き、マラソン競走が始まりました。
ストックホルムのマラソンコースは直線道路が少なく、カーブや上り下りが多い難しいコースなうえ、この日の気温は日陰でも30度を超える猛暑でマラソン競技にとっては、大変厳しい条件でした。
エントリーは19カ国98選手でしたが、そのうち出場したのは68人で、結局完

走したのは半分の34人であったことから、このときの過酷さが判ります。
●「消えたオリンピック走者」
スタートで出遅れた金栗は一度は最後尾になりますが、その後疲れてきた選手を抜き、18位・17位まで順位を上げていきました。しかし、折り返し地点を過ぎてまもなく、急激な疲労が金栗を襲いました。懸命に力をふりしぼって走り続けようとしていますが、体がいう

ことをききません。頭の中がボーッとしかすみはじめ、とうとう26・7キロメートル地点でコースをはずれて、林の中に消えてしまいました。
このことで金栗四三は、「消えたオリンピック走者」として語られることとなりました。



今なお残る“金栗”の名前

金栗四三氏といえば「日本人初の五輪選手」「箱根駅伝の発案者」「日本マラソンの父」などの逸話が全国的に有名ですが、ここ玉名でも“金栗”の名前は今なお残り続けています。



●金栗杯玉名ハーフマラソン大会

昭和24年に開催以来60余年の歴史と伝統を誇る大会。若手選手の登竜門として数々の名ランナーを輩出してきました。

●金栗四三の銅像

金栗氏の出身校である玉名高校の校庭には、金栗氏の銅像があります。昭和44年に建立され、ほほえんだ表情で生徒達を見守っています。

●金栗駅伝大会

金栗四三氏の功績をたたえ玉名市陸上競技協会が毎年開催。30回以上の歴史を持つ大会で、小学生から一般までが各部門で争います。

「大敗後の朝を迎う。終生の遺憾のことで心うずく。余の一生の最も重大なる記念すべき日なりしに。しかれども失敗は成功の基にして、また他日その恥をすすぐの時あるべく、雨降って地固まるの日を待つのみ。人笑わば笑え。これ日本人の体力の不足を示し、技の未熟を示すものなり。この重任を全うすることあたわざりしは、死してなお足らざれども、死は易く、生は難く、その恥をすすぐために、粉骨碎身してマラソンの技を磨き、もって皇国の威をあげん」

——金栗四三、ストックホルム・マラソン翌日（7月15日）の日記より

●オリンピック出場後の金栗四三

ストックホルムオリンピックにおいて金栗は、思うような結果は残せませんでした。敗因は、シベリア鉄道での長期の移動と宿舎の劣悪な環境の中でコンディショニングの維持が出来なかったこと、夏の暑さにまいったこと、練習と経験不足、慣れない堅い路面に足袋が破れ膝を痛める結果となったことなど考えられました。

挽回を期した第6回オリンピックベルリン大会は戦争で中止となり、第7回アントワープ（ベルギー）大会は16位、第8回パリ大会は棄権に終わってしまい、悲運のオリンピックランナーとして語り継がれています。

●55年目のゴール

ストックホルムオリンピックから55年後の昭和42年、金栗のもとにストックホルムオリンピック委員会から、一通の手紙が届きました。それはオリンピック55周年記念行事の一環として招待したいという内容でした。

3月20日、金栗は55年ぶりにストックホルムの空港に降り立ちました。オリンピック委員会は、金栗が行方不明となつて果たせなかったオリンピック

のゴールインを祝賀行事で行うことを計画、スタジアムに正式のゴールテープを用意していました。

75歳の金栗は、両手をあげてゴールテープを切りました。そのとき会場に「日本の金栗四三選手、ただいまゴールインしました。タイム54年と8カ月6日5時間32分20秒3、これをもちまして、第5回ストックホルムオリンピック大会の全種目を終了いたします」とアナウンスが流れ、会場は大きな拍手に包まれました。金栗は、「長い道のりでした。その間に嫁をめぐり、子供6人と孫10人ができました」と語りました。この記録は、世界で最も遅いマラソン記録として語られます。

●日本スポーツのさきがけ

しかし三度のオリンピック出場を見た、世界のスポーツ競技の水準は想像以上でした。世界のスポーツの状況を目の当たりにした金栗四三は、日本でもスポーツを広めなければならないと決意します。とくに金栗は、女子も参加してスポーツが盛んな光景に感銘し、将来母となる女学生の心身を鍛えることは国の重大事であると指摘しました。1921年（大正10年）東京女子師範学校に奉職すると、初めての女子テニ

ス大会・女子連合競技大会を開催、大正12年には関東女子体育連盟を結成するなど、女子体育の振興に力をいれていきました。

地理の教師のかたわら、学校をまわって学生らと一緒に走り、スポーツの重要性を語りました。競技会や運動会に顔を出してに努めました。暑さに強くなるように真夏の房総海岸での耐熱練習を繰り返し、心肺機能を高めるため富士山麓での高地トレーニングを続けました。ハリマヤ足袋店の黒坂辛作の協力で足袋の改良に取り組みました。ストックホルムで見た外国人が履くゴムを底につけたシューズがヒントとなり、ゴム底の「金栗足袋」を開発。多くのマラソン選手たちが、「金栗足袋」を履いて走りました。

日本体育・マラソン普及のため、下関—東京間（大正8年）、樺太—東京間（大正11年）、九州一周（昭和6年）を踏破、全国走破を成し遂げました。また一人ではなくチームで長距離を走るため、駅伝を発案。日本初の駅伝

東海道五十三次駅伝（大正6年）や箱根駅伝（大正9年）を企画。箱根駅伝は、正月恒例の大会となっています。戦後故郷に帰ってからは、熊本県体育協会をつくり、初代会長として県体育界をリード、昭和35年県民体育祭を実現しました。

●大きな功績を残した人生

金栗四三は、期待を背負って出場したオリンピックで結果を残せませんでした。が、初の大きな国際大会への参加から得た教訓を生かし、その後の人生をマラソン界の発展と日本スポーツの基礎を築くことに奔走しました。「体力・気力・努力」の精神のもと、誰もがスポーツを楽しむ日本をつくることに生涯をかけ、金栗四三は1983年（昭和58年）92歳で永眠しました。



↑ 55年越しのゴールの瞬間



玉名市立歴史博物館こころピア企画展

☎…こころピア (☎74・3989)

「ストックホルムオリンピック出場から100年

日本スポーツのさきがけ 金栗四三展」9月2日(日)まで開催中！

ストックホルム大会のプログラムやマラソンコース地図、アントワープ大会・パリ大会のシャツや胸章など貴重な資料を展示していますので、この機会にぜひご覧ください。また、この企画展を観覧した人には、博物館特製の金栗四三ポストカードをプレゼント中です。数に限りがありますので、

お急ぎください。

7月29日(日)には、『箱根駅伝に賭けた夢「消えたオリンピック走者」金栗四三がおこした奇跡』(講談社)の著者佐山和夫氏をお迎えして、講演会を開催します。詳しくは次号広報でお知らせします。